2025年9月社長会見

２０２５年9月１７日

１.営業・輸送概況

２. 鉄道文化振興の取り組み

３.大阪・関西万博最終日の主催イベント

４.お詫び

詳細

東京での会見は初めてとなりますので、会見を始める前に、首都圏のメディアの皆さまにご挨拶をさせていただきます。

まずは、平素から当社グループが展開する様々な事業に対して関心をお寄せいただきまた、ご理解をいただきまして、誠にありがとうございます。

当社は、グループ全体の目指す姿として「私たちの志」として「人、まち、社会のつながりを進化させ、心を動かす。未来を動かす。」という内容を定めております。こうした「私たちの志」の実現に向けて、中期経営計画2025、そして鉄道安全行動計画 2027 に精一杯取り組んでいるところでございます。

とりわけ、基幹事業である鉄道の安全に関しては、2005 年に私どもが引き起こしました福知山線列車事故を私どもにとって安全構築の原点といたしております。

この重大事故の反省や教訓を踏まえ、鉄道の安全性向上を基盤に、インフラ企業としての責任を果たしてまいりたいと考えています。

さて、現在、大阪・関西万博の開催により、関西には多くの方々がお越しいただいております。大変な賑わいを見せております。

また、３月に広島では地元の皆さまや地域の方々のご支援をいただき広島駅に新しい駅ビルが開業しています。こちらも多くのお客様にご利用いただき、大変ありがたく思っております。

このように鉄道をはじめ、当社グループの様々な事業を通じて、グループ内外の連携を強くして取り組むことにより、地域や社会の発展に貢献していけるよう取り組んでまいります。

一方、人口減少や災害の激甚化、物価高騰、そして、急速に進化を遂げる AI 等の技術革新など、当社を取り巻く環境は急速に変化しています。

こうした環境において企業グループとして成長を続けるために、鉄道事業を基盤とし、様々なパートナーの皆さまと共に価値を創り上げながら、社会課題の解決に寄与するとともに、成長分野への挑戦を加速させたいと考えております。

引き続き、皆さまからのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1．営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入につきましては、８月は前年比で１１３.０%、９月は７日までで１０８.２%です。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同日比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
8月	113.0%	112.8%	115.0%	103.3%
9月（9/1～7）	108.2%	119.1%	108.2%	96.5%

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況ですが、山陽新幹線は、８月が前年比で１１３%、９月が７日までで１１２%、近畿圏は、８月が１１０%、９月が７日までで１１７%となっております。

前年の南海トラフ地震臨時情報や台風の反動もございますが、大阪・関西万博の開催を受けて、お盆期間を含め、多くのお客様にご利用いただいております。

これから秋の行楽シーズンを迎える中、残り ４ 週間を切りました万博の駆け込み需要も重なり、この先も多くのお客様にご予約をいただいています。

引き続きお客様に安心してご利用いただける輸送体制の確保に努力してまいりたいと考えております。

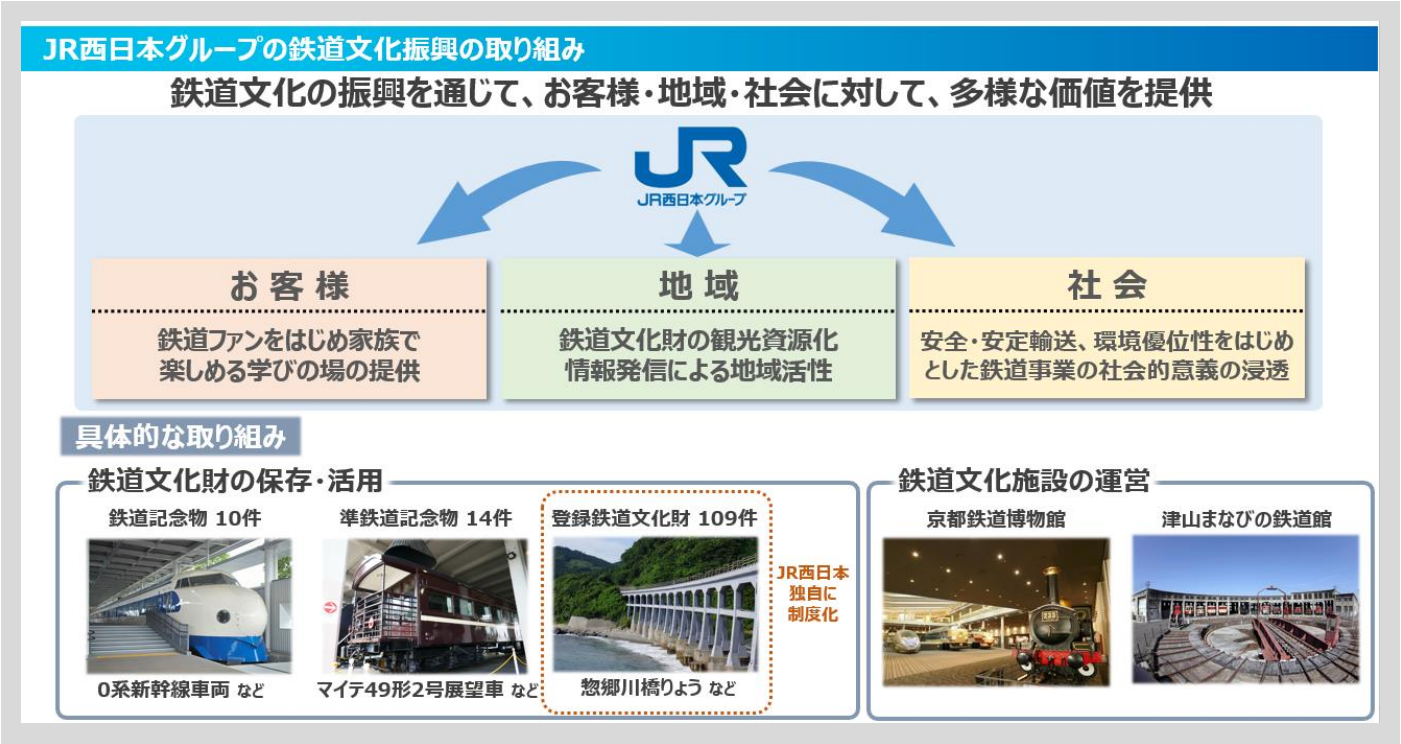
新幹線･在来線特急･近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同日比				
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏	
				近距離券発売枚数	自動改札通過人員
8月	113%	97%	112%	110%	107%
9月（9/1～7）	112%	97%	105%	117%	104%

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績と自動改札通過人員の前年同日比を併記しています。

2.鉄道文化振興の取り組み

次に鉄道文化振興の取り組みについてご紹介いたします。



当社はこれまで、お客様、地域、社会の皆さまに多様な価値を提供していくことの一環として、鉄道文化振興に積極的に取り組んでまいりました。

これまでの取り組みは、大きく２点ございます。

１点目は「鉄道文化財の保存と活用」です。国鉄時代に創設された「鉄道記念物」と「準鉄道記念物」の制度を継承し、JR 発足以降も登録を拡大しています。

加えて、2008 年には、将来、鉄道記念物などに指定される可能性がある文化財を指定する「登録文化財制度」を独自に制定しております。

現在は、「鉄道記念物」を 10 件、「準鉄道記念物」を 14 件、「登録鉄道文化財」を 109 件リストアップしています。

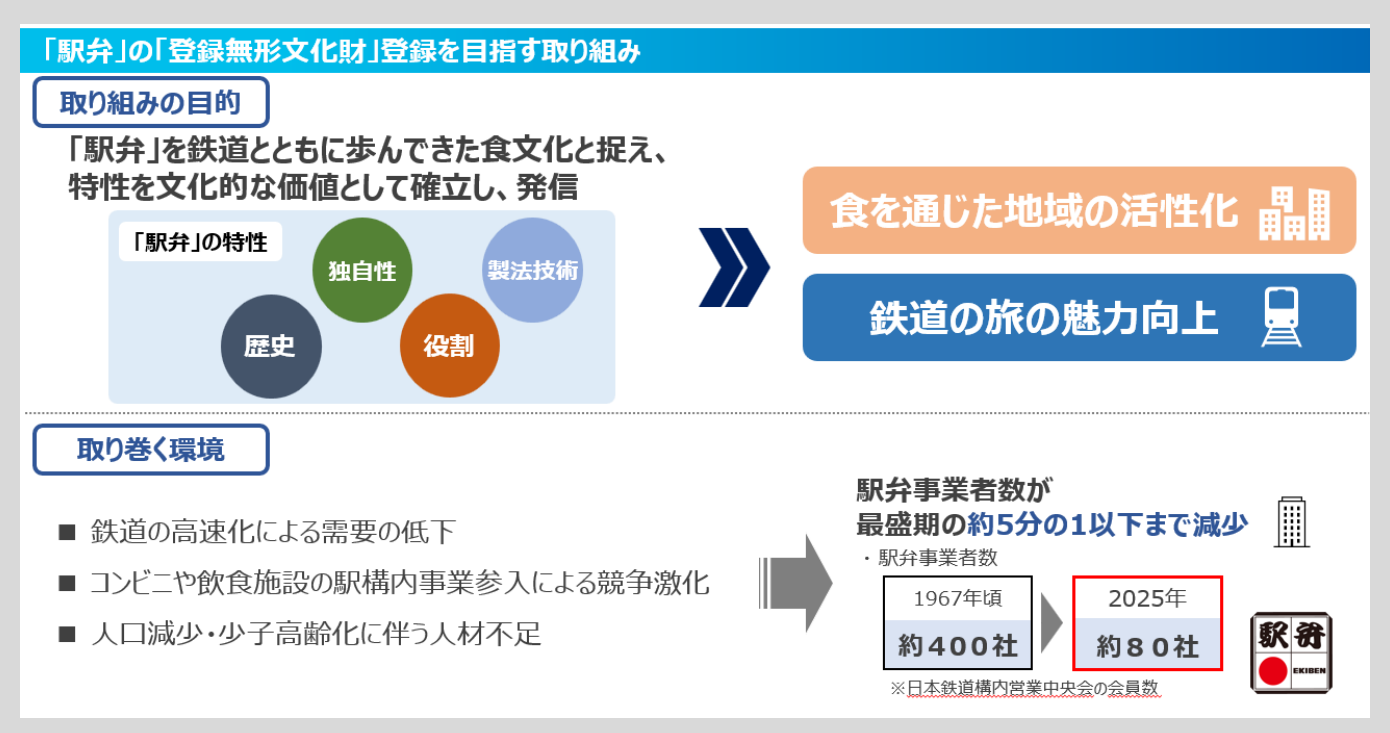
２点目は「鉄道文化施設の運営」です。

京都鉄道博物館や岡山県の津山まなびの鉄道館を中心として、鉄道文化をより身近に感じていただける文化拠点を地域の皆さまとともに整備し、運営しています。これらの施設では、国の重要文化財を含めた貴重な鉄道文化財を保存し、活用しています。

こうした活動を通じ、文化財の散逸防止や良好な状態での保存・管理そして、活用に取り組み、鉄道文化の啓蒙や地域との交流に役立てています。

本日は、こうした当社の鉄道文化振興の活動の幅をさらに広げる取り組みを紹介いたします。

ここからは鉄道文化の１つである「駅弁」を国の「登録無形文化財」への登録を目指す取り組みについて紹介いたします。



当社としては、いわゆる「駅弁」はその歴史や独自性、役割、製法技術といった特性をもっており、鉄道とともに歩んできた食文化と捉えています。

これら駅弁の文化的な価値を確立し、国の「登録無形文化財」への登録を目指すことで、食を通じた地域の活性化や鉄道の旅の魅力向上に取り組んでまいります。

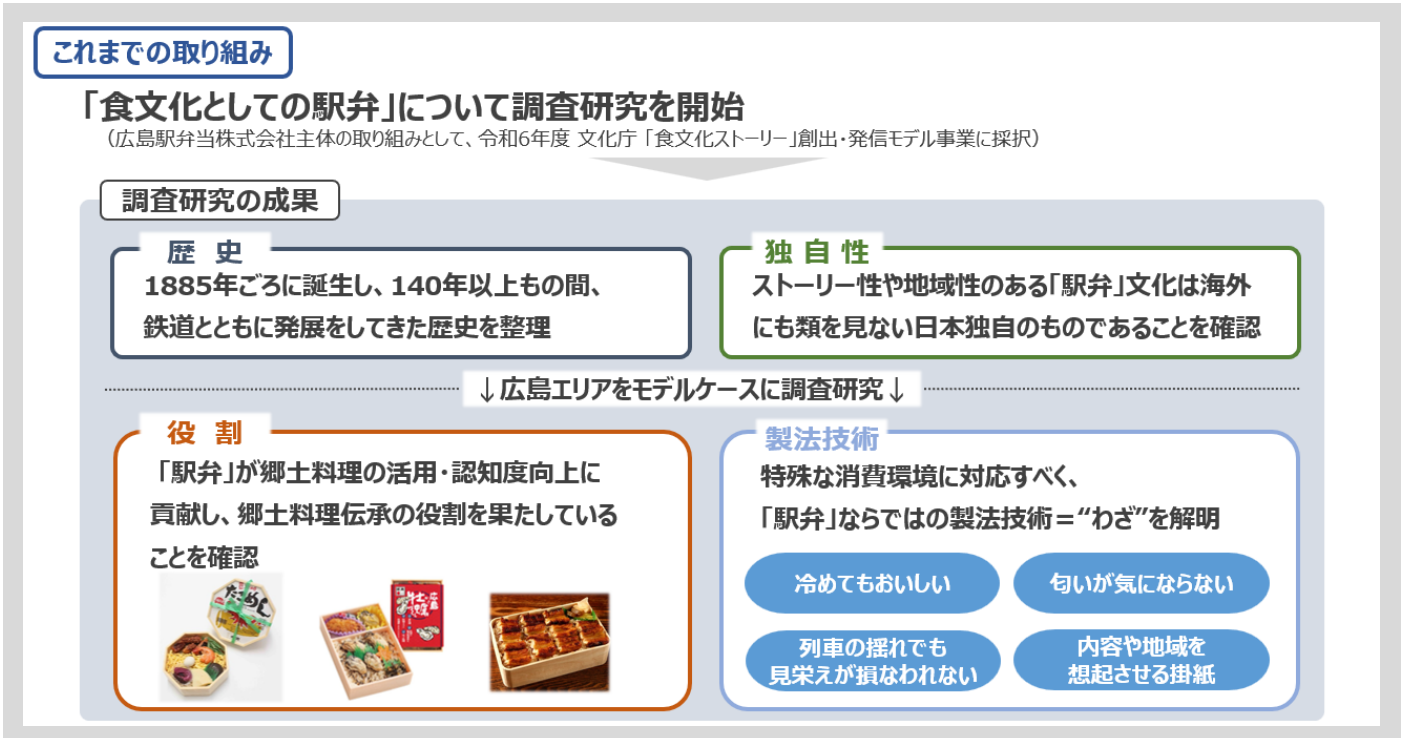
一方、駅弁事業は厳しい状況に直面しています。

鉄道の高速化による需要の低下や、駅構内へのコンビニ・飲食店の参入による競争激化といった複合的な要因により、駅弁事業者は最盛期の５分の１以下まで減少しています。

こうした厳しい環境にある駅弁ですが、昨年度から広島駅弁当株式会社様が主体となり、当社も協力して「食文化としての駅弁」をテーマとする調査研究を開始いたしました。

昨年度は文化庁様から「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業としてご支援をいただいています。

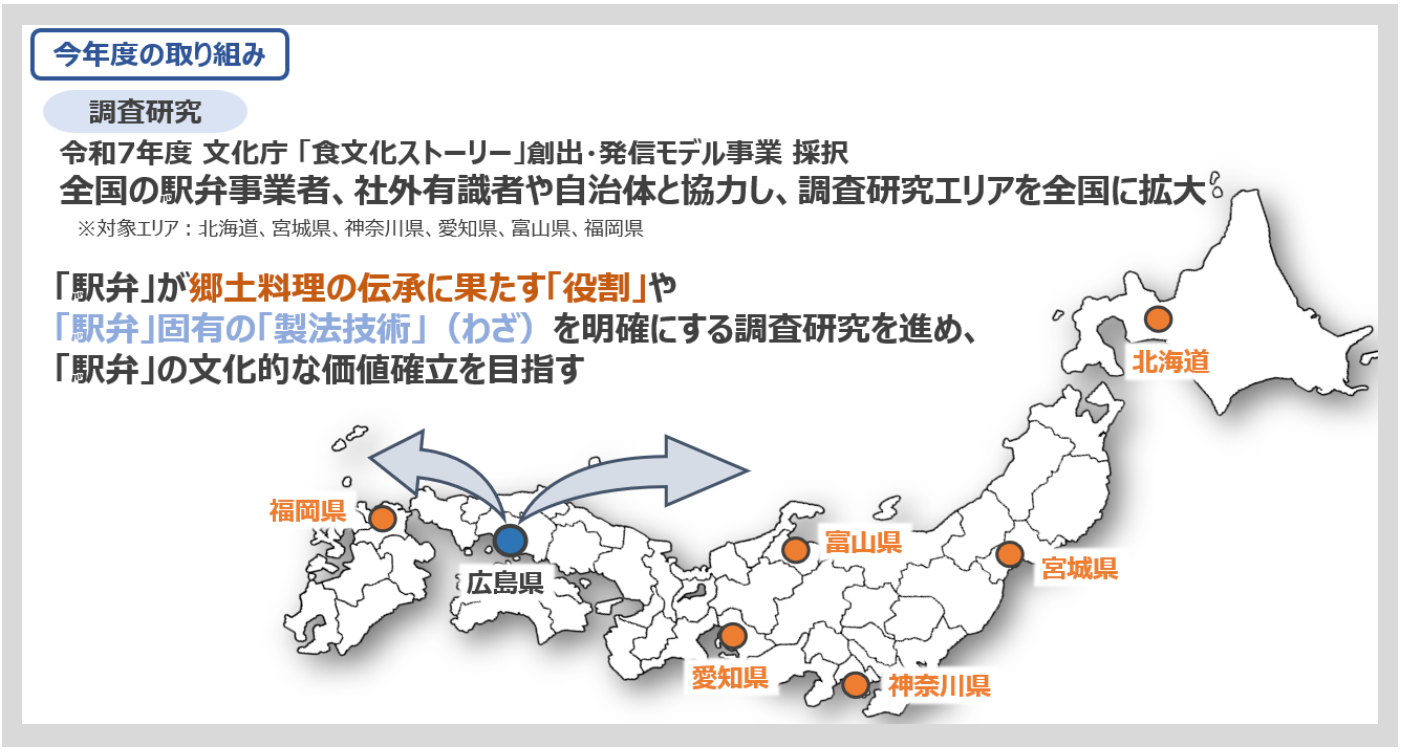
その研究成果についてご報告いたします。



まず、駅弁は、140 年以上もの間、鉄道とともに発展してきた歴史があること、そして、駅弁文化が海外にも類を見ない、日本独自のものであることを確認いたしました。

また、広島エリアの駅弁をモデルケースに調査研究を行ったところ、駅弁が郷土料理の活用・認知度向上に貢献し、郷土料理の伝承に役割を果たしていることを確認いたしました。

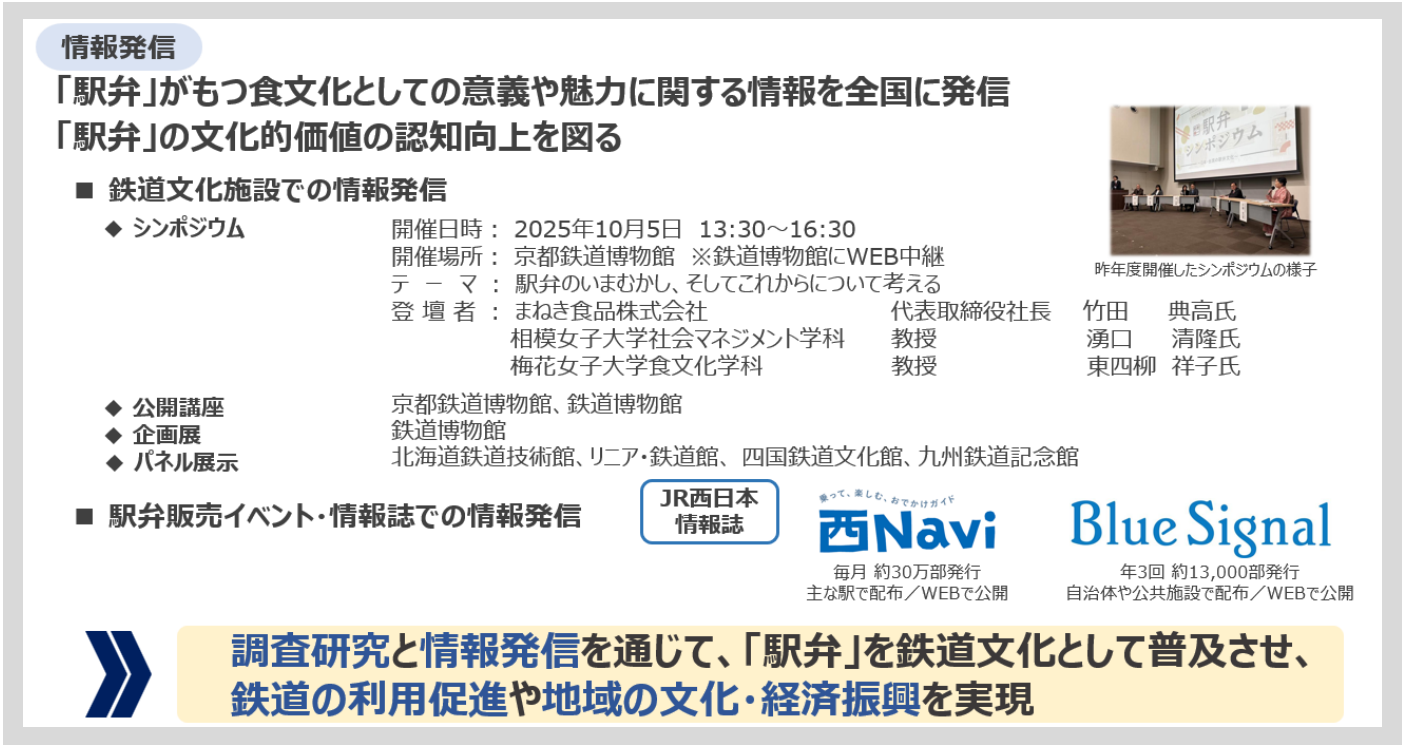
さらに、冷めてもおいしいことや匂いが気にならないことなど、駅弁ならではの製法技術、すなわち「わざ」があることを確認いたしました。



このような調査研究を、今年度は当社が継承し、駅弁事業者や様々な専門分野の社外有識者、自治体の皆さまと協力し、エリアを全国に拡大して進めています。

これらは文化庁様の令和７年度 「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業に採択されています。

引き続き皆さまにご協力いただきながら研究を進め、駅弁が郷土料理の伝承に果たす役割や駅弁固有の製法技術が全国的に共通することを明らかにすることで、駅弁が持つ文化的価値の確立を目指してまいります。



また、調査研究と並行し、駅弁がもつ食文化としての意義や魅力に関する情報を全国に発信してまいります。

その一環として、当社が運営する京都鉄道博物館では、10 月 5 日に「駅弁のいまむかし、そしてこれからについて考える」をテーマにしたシンポジウムを開催します。

また、このシンポジウムは、さいたま市の大宮にある、JR 東日本様の鉄道博物館でも WEB で中継し、大勢の皆さまにご視聴いただけるよう準備を進めています。

さらに、北海道から九州まで全国の鉄道文化施設で、駅弁についての公開講座、企画展やパネル展示を行います。

加えまして、駅弁販売イベントや情報誌での情報発信を積極的に展開し、より多くの方々に駅弁の文化的価値への関心をもっていただきたいと考えています。

このように、駅弁の文化的価値に関する調査研究と情報発信を通じ、駅弁を鉄道文化として普及させ、地域の文化・経済振興や鉄道の旅の魅力向上を実現してまいりたいと考えています。

２つ目の新たな鉄道文化振興の取り組みとして「レーシング＆レールウェイヒストリー」の開催について紹介いたします。

このたび、株式会社ホンダ・レーシング様と連携し、「レーシングカー」とコラボレーションしたイベントを京都鉄道博物館で開催いたします。

「レーシングカー」と鉄道車両は、速度や安全性、効率性の追求といった技術開発の目的、開発の歴史、そして活用している技術など、多くの共通点がございます。

今回のイベントでは、両者の共通点にフォーカスをあてた、ユニークな企画を展開いたします。皆さまには、双方の文化的な価値を体感いただき、楽しみながらそれぞれの事業に興味をもっていただく機会となるとともに、より学びを深める場となることを期待しています。

当社といたしましては、こうした異なる企業の皆さまとの連携を通じて、お客様とのつながりや鉄道文化活動の幅を広げてまいりたいと考えています。

ぜひ、この機会に多くの方に京都鉄道博物館にご来館いただければと思います。

3. 大阪・関西万博最終日の主催イベント

次に大阪・関西万博最終日の当社主催イベントについてご紹介いたします。

当社グループではこれまで、主に万博への来場者の輸送を支える役割を果たすとともに、大阪ヘルスケアパビリオンへのカラダ測定ポッドの提供やオフィシャルストアの展開、万博の訪問をきっかけとした「プラスワントリップ」の取り組みなど、万博の波及効果の最大化に向け、グループを挙げて取り組んでまいりました。

このたび、10 月 13 日の万博最終日に、万博会場内において、ご来場者やこれまで万博の開催を支えてこられたスタッフの皆さまに「感謝」の気持ちをお伝えするイベントを開催することといたしました。

今回のイベントは、３部構成で開催いたします。

第一部では、美しい文化・伝統を通じた「おもてなし」をテーマに、日本各地の日本酒の「ふるまい」や、会期中会場で公演された日本の伝統芸能そして、海外の演目などを披露させていただきます。

第二部では、「ありがとう」をお伝えすることをテーマに、これまで万博に携わっていただいたアーティストによる音楽ライブを行います。

フィナーレとなる第三部では、これからの「旅立ち」をテーマに、開幕前から万博会期終了までを映像で振り返るとともに、ピアノ演奏と合唱により、皆さまの新たな旅立ちを応援するステージを演出いたします。

このイベントを通じ、万博に携わっていただいた全ての方々に感謝をお伝えするとともに、万博が素晴らしい思い出として皆さまの心に刻まれ、また、海外の方に「また日本に来たい」と思っていただけるようなイベントとなるよう準備を進めてまいります。

ご出演いただくアーティストなどの詳細については、後日お知らせさせていただきます。

また、このイベントにあわせ、抽選で当日の大阪・関西万博入場チケットとイベントの優先観覧チケットがペアで当たるキャンペーンを「WESTER」で開催いたします。

なお、「WESTER」は、どなた様でも無料でスマホのアプリから会員になっていただけます。

現在、1,100 万人以上の方々が会員となっておられます。

万博最終日のファイナルイベントでは、ぜひ多くのお客様にお越しいただければ幸いです。

４．お詫び

最後に、９月 11 日にお知らせいたしました速度制限標識の設置誤りについて、お客様にご心配おかけいたしましたことを改めてお詫び申し上げます。

９月５日に金沢支社エリアで信号設備工事に伴い線路のデータを確認していたところ、沿線に設置している「速度制限標識」の一部に誤りがあることが判明いたしました。

これを受けまして、当社管内の全線を調査したところ、同様の誤りが合わせて 11 曲線あることを確認し、直ちに是正をいたしました。

今後、チェック体制の見直しなど再発防止に努めてまいります。